

## 1 学校の課題

学校には以下のような課題が山積し、その根源は複雑である。様々な家庭環境がある中、日によって子どものやる気や顔色が違う。子どもは、何のために勉強するのか、何のために挨拶したり整理整頓したりするのか分からず、日々を送っているのではないだろうか。一方、学校生活アンケートに、将来の夢を全く書けない子どもが増えていることに驚きを感じる。さらに、教師は教師の立場で、保護者は保護者の思いで子どもに接しており、複雑な課題を解決するには、一層の連携関係推進が必要である。

- ・学力の2極化 ・基本的生活習慣の乱れ ・夢が描けない子ども
- ・何のために勉強するのか分からない子ども ・耐性のない子ども
- ・保護者と教師が同じ立ち位置で子どもを指導や支援ができていないか

## 2 子どもの現在と将来をつなぐ「夢フェスタ」構想

P T Aで話し合う中で、子どもの将来の夢を、教師、保護者、地域が一体となって描かせることを通して、今を精一杯生きる子どもを共に育てようということになった。そこで、子どもが将来成りたい職業（保護者が体験させたい職業）のプロを学校へ招聘し、体験させようという「夢フェスタ」構想が生まれた。

H28 年度末、P T A・学校支援コーディネーターと共に先進校（合志南小）視察。  
H29 年度当初構想...「夢」に関する（講話+職業体験）をさせたい。P T A 常任委員会に「夢づくり委員会」を設置。担任と保護者が協働で体験ブースを運営。体験ブースは、（子どもの夢+親がさせたい）の思いに叶う職業。講師は保護者や地域の方々からボランティアとして依頼。交渉は保護者が中心になって行う。

## 3 P T A 常任委員会「夢づくり委員会」発足

H28 年度まであった「夏祭り」委員会を「夢づくり」委員会に改変。0 からの出発であり、当初は学校がリードしたが次第に保護者が主導して、「夢フェスタ」が実現した。

- (1) 前年度 2 月執行部会で、「夢フェスタ」構想を説明。「夏祭り」委員会を「夢づくり」委員会に改変する趣旨を提案し、意見を問うた。
- (2) 4 月授業参観日に、地区委員に「夢フェスタ」の構想、「夢づくり」委員の仕事を説明。学校懇談会内での「夢づくり」委員の選出を依頼。
- (3) P T A 総会にて、P T A 規約改正。「夢づくり」委員会を設置。
- (4) 委員会としての主な協議題（全 10 回）
  - 5/25 内容確認概略、タイムスケジュール、役割分担、アンケートの構想
  - 6/13 仕事の抽出方法、アンケート集計、各部会
  - 6/30 ブース決定
  - 7/27 ブースの進捗状況確認（予定の可否、参加可能な人数・学年、準備物、道具、指導者人数、他）
  - 8/24 ブース内容説明・確認、ブースの決定方法
  - 9/14 ブースの決定方法、児童希望集計
  - 9/21 参加児童発表、準備物等確認、役割分担
  - 9/28 ブース人数、委員と担任等の打ち合わせ
  - 10/26 当日の全体の流れ、役割分担、学級委員の役割
  - 12/7 反省（引き継ぎたいこと）、講師へのお礼づくり



夢づくり委員会（後方は P T A 幹部）

The top row features three main elements: a large event poster on the left with the title '第1回 ゆめフェスタ' and '子どもをP・T・Aで完全サポート!'; a central vertical banner for the '夢・講演・仲間' (Dream, Lecture, Companion) theme featuring 'アツ熊本 ユス馨 藤本 主税氏'; and a detailed grid of booth activities on the right, including '犬のしつけ体験' (Dog training), '山鹿灯籠' (Yamagata lantern festival), 'お洋服を作る仕事' (Job of making clothes), 'お洋服を作る仕事' (Job of making clothes), '介護士体験' (Nursing experience), '自衛隊体験' (Self-defense experience), '消防士体験' (Firefighter experience), 'パティシエ体験' (Pastry chef experience), 'Jリーガー体験' (J-League player experience), and '農家体験' (Farmer experience).

ポスター 「夢」講演 1 2 フース内容  
 (体験の一コマ) どの子どもの目もきらきら輝いていた。

A grid of 12 photographs showing children participating in various activities. Each photo is accompanied by a caption below it:

- トリマー (Groomer)
- 警察官 (Police officer)
- 山鹿灯籠師 (Yamagata lantern festival)
- ミュージシャン (Musician)
- デザイナー (Designer)
- 体操の先生 (Gymnastics teacher)
- 介護士 (Nurse)
- 自衛隊員 (Self-defense team member)
- 消防士 (Firefighter)
- パティシエ (Pastry chef)
- Jリーガー (J-League player)
- 農家 (Farmer)

5 成果と課題 (学：学校、保：保護者からの意見)  
 学 夢を語れる児童が増え、今に集中して頑張る子ども増加。  
 学 保護者との連携が進展し、協働体制が整えられた。  
 学 マネージメント時間を次年度から圧縮する。  
 保 すごくいいイベントだった。集中、大喜び、目がきらきら！  
 保 職能、生き方や感謝心、考え方など多くのことを教わった。  
 保 ブース担当も他のブースを見たい。係員を増員したら。  
 保 講師を全体会で紹介したら。体験時間を長くして欲しい。  
 保 打合せ、駐車場、子どもの居場所の確認など課題。

(当日日程)  
 ・講師集合：12:30~  
 ・全体会・講演会：13:00~  
     アツ熊本 ユス馨 藤本 主税 様  
 ・移動・準備：14:15~  
 ・体験：14:25~  
 ・移動準備：15:10~  
 ・体験：15:20~  
 ・一斉下校：16:20